

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月10日

【四半期会計期間】 第90期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

【会社名】 アサガミ株式会社

【英訳名】 ASAGAMI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木村 健一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 03 - 4288 - 3000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 北川 敏行

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目6番2号

【電話番号】 03 - 4288 - 3000 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理部長 北川 敏行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第89期 第3四半期 連結累計期間 | | 第90期 第3四半期 連結累計期間 | | 第89期 | |
|--------------------------|------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------|-------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年4月1日 平成22年12月31日 | 自 至 | 平成23年4月1日 平成23年12月31日 | 自 至 | 平成22年4月1日 平成23年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | | 33,926,176 | | 32,949,608 | | 43,335,618 |
| 経常利益 | (千円) | | 1,276,015 | | 936,763 | | 988,355 |
| 四半期(当期)純利益 | (千円) | | 460,534 | | 185,518 | | 61,814 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (千円) | | 353,008 | | 550,036 | | 99,982 |
| 純資産額 | (千円) | | 10,789,661 | | 10,768,443 | | 10,336,428 |
| 総資産額 | (千円) | | 64,448,148 | | 62,738,985 | | 56,909,890 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額 | (円) | | 32.53 | | 13.11 | | 4.37 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | | | | |
| 自己資本比率 | (%) | | 16.6 | | 17.0 | | 18.0 |

| 回次 | | 第89期 第3四半期 連結会計期間 | | 第90期 第3四半期 連結会計期間 | |
|---------------|-----|-------------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------------|
| | | 自 至 | 平成22年10月1日 平成22年12月31日 | 自 至 | 平成23年10月1日 平成23年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | | 44.75 | | 31.26 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第89期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による厳しい状況の中、生産に緩やかな持ち直しの動きがあるものの、貿易輸出額、設備投資額は低下傾向にあり、電力供給の制約や原子力災害の影響、さらに欧州債務危機による海外景気の下振れ、デフレの影響、雇用情勢の悪化など多くの懸念材料が存在することから依然として予断を許さない状況となっております。

こうした経済情勢の中、当社を取り巻く経営環境は、物流業界では港湾運送において緩やかな回復傾向にあるものの、営業倉庫、トラック輸送については足踏み状態が続いております。新聞印刷業界では発行部数の減少、企業の広告経費削減に伴う印刷ページ数の減少により厳しい状況が続いており、また、一般・商業印刷業界においても震災の影響により厳しい状況が続いております。

このような経営環境に対応すべく、当社グループは、原点である経営理念の「顧客に対する最高のサービス」、「適正利潤の追求」、「真に働きがいのある会社」に立ち返り、取組みを行ってまいりました。

この結果、第3四半期連結累計期間における売上高は32,949百万円（前年同四半期比2.9%減）、営業利益は1,159百万円（前年同四半期比26.7%減）、経常利益は936百万円（前年同四半期比26.6%減）、四半期純利益は185百万円（前年同四半期比59.7%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

物流事業

当事業のうち、倉庫部門につきましては、物流センターの取扱量が減少し、売上高は1,912百万円（前年同四半期比13.3%減）となりました。港湾フォワーディング部門につきましては、原発事故にともなう放射能の影響で輸出貨物量の減少があったものの、その後、輸出貨物における荷動きも着実に回復したことにより増加し、売上高は4,642百万円（前年同四半期比7.0%増）となりました。運輸部門につきましては、地震により被災した事業所における減収や福島原発事故による電力供給量の制限によって輸送需要が減少し、売上高は7,918百万円（前年同四半期比7.1%減）となりました。3PL（サードパーティロジスティクス）部門につきましては、物流センターの取扱量が減少し、売上高は971百万円（前年同四半期比4.8%減）となりました。この結果、当事業の売上高は15,445百万円（前年同四半期比4.0%減）、セグメント利益は1,163百万円（前年同四半期比2.8%減）となりました。

不動産事業

当事業につきましては、賃貸物件の料金改定などにより、売上高は2,665百万円（前年同四半期比4.6%増）、セグメント利益は1,110百万円（前年同四半期比3.5%増）となりました。

印刷事業

当事業につきましては、婚礼部門について商品単価の上昇が見られるものの震災影響による受託件数の落ち込みがあり、また年賀部門について名入れ印刷の受託件数が過去最高水準となった一方、パック商品の販売数が減少したことにより、売上高は15,612百万円（前年同四半期比2.9%減）、セグメント利益は299百万円（前年同四半期比62.4%減）となりました。

その他

当事業につきましては、建築工事関連において、震災後の復旧工事の受注増加やグループ内の取引となりますが人材派遣事業の新たな収益が増加し、売上高は850百万円（前年同四半期比74.3%増）、セグメント利益は29百万円（前年同四半期比139.4%増）となりました。

(2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間における総資産は前連結会計年度末に比べ5,829百万円増加し、62,738百万円となりました。主な増減は、受取手形及び売掛金が3,900百万円、その他（年賀事業のはがきの立替など）が2,865百万円増加し、減価償却費等により建物及び構築物が498百万円、機械装置及び運搬具が317百万円、株価変動により投資有価証券が131百万円、法定実効税率の変更等により繰延税金資産が減少しております。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ5,397百万円増加し、51,970百万円となりました。主な増減は、支払手形及び買掛金が849百万円、短期借入金が6,552百万円増加し、長期借入金が1,965百万円、法定実効税率の変更により再評価に係る繰延税金負債が421百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金の増加および法定実効税率の変更により土地再評価差額金が421百万円増加し、10,768百万円となり、自己資本比率は17.0%となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 48,720,000 |
| 計 | 48,720,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成24年2月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 普通株式 | 14,180,000 | 14,180,000 | 東京証券取引所 市場第2部 | 単元株式数は1,000株で あります。 |
| 計 | 14,180,000 | 14,180,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|-------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成23年12月31日 | | 14,180,000 | | 2,189,000 | | 32,991 |

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直近の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 24,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 14,121,000 | 14,121 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 35,000 | | |
| 発行済株式総数 | 14,180,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 14,121 | |

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が9,000株(議決権9個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が771株含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------------|-----------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) アサガミ株式会社 | 東京都千代田区大手町2-6-2 | 24,000 | | 24,000 | 0.2 |
| 計 | | 24,000 | | 24,000 | 0.2 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、公認会計士 野末昭孝氏及び公認会計士 本橋清彦氏による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,905,833 | 5,249,232 |
| 受取手形及び売掛金 | 5,497,907 | 4 9,398,151 |
| 商品及び製品 | 61,884 | 59,449 |
| 仕掛品 | 20,859 | 73 |
| 原材料及び貯蔵品 | 611,181 | 661,382 |
| 繰延税金資産 | 306,431 | 170,020 |
| その他 | 827,303 | 3,692,684 |
| 貸倒引当金 | 30,830 | 18,964 |
| 流動資産合計 | 12,200,571 | 19,212,029 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 13,511,635 | 13,013,091 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,294,075 | 1,976,341 |
| 土地 | 20,425,032 | 20,425,032 |
| その他（純額） | 1,145,226 | 1,074,166 |
| 有形固定資産合計 | 37,375,970 | 36,488,631 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 524,667 | 274,250 |
| 借地権 | 1,118,526 | 1,118,526 |
| その他 | 160,594 | 240,381 |
| 無形固定資産合計 | 1,803,788 | 1,633,158 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,018,048 | 1,886,678 |
| 長期貸付金 | 1,039,340 | 1,011,340 |
| 繰延税金資産 | 922,945 | 886,270 |
| その他 | 2,103,700 | 2,161,678 |
| 貸倒引当金 | 554,476 | 540,802 |
| 投資その他の資産合計 | 5,529,559 | 5,405,165 |
| 固定資産合計 | 44,709,318 | 43,526,955 |
| 資産合計 | 56,909,890 | 62,738,985 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4,082,286 | 4,931,362 |
| 短期借入金 | 8,844,536 | 15,396,751 |
| 1年内償還予定の社債 | 731,280 | 598,880 |
| 未払法人税等 | 257,361 | 432,704 |
| 賞与引当金 | 459,445 | 126,450 |
| 訴訟損失引当金 | 8,502 | 8,502 |
| 災害損失引当金 | 51,594 | - |
| P C B 廃棄物処理費用引当金 | 5,300 | 5,300 |
| 返品調整引当金 | - | 6,424 |
| その他 | 2,121,482 | 2,993,579 |
| 流動負債合計 | 16,561,790 | 24,499,955 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 1,377,360 | 1,144,120 |
| 長期借入金 | 21,209,668 | 19,244,461 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 3,398,391 | 2,976,620 |
| 繰延税金負債 | - | 133 |
| 退職給付引当金 | 1,436,679 | 1,540,051 |
| 役員退職慰労引当金 | 946,734 | 973,479 |
| 長期預り金 | 1,381,584 | 1,379,105 |
| その他 | 261,254 | 212,614 |
| 固定負債合計 | 30,011,672 | 27,470,586 |
| 負債合計 | 46,573,462 | 51,970,541 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,189,000 | 2,189,000 |
| 資本剰余金 | 32,991 | 32,991 |
| 利益剰余金 | 3,442,135 | 3,514,395 |
| 自己株式 | 8,429 | 9,692 |
| 株主資本合計 | 5,655,696 | 5,726,694 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 168,624 | 96,846 |
| 土地再評価差額金 | 4,403,013 | 4,824,784 |
| その他の包括利益累計額合計 | 4,571,637 | 4,921,631 |
| 少数株主持分 | 109,093 | 120,118 |
| 純資産合計 | 10,336,428 | 10,768,443 |
| 負債純資産合計 | 56,909,890 | 62,738,985 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 1 33,926,176 | 1 32,949,608 |
| 売上原価 | 1 26,747,161 | 1 25,702,134 |
| 売上総利益 | 7,179,014 | 7,247,474 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 360,005 | 364,551 |
| 給料手当及び賞与 | 2,088,156 | 1,980,306 |
| 賞与引当金繰入額 | 66,993 | 53,857 |
| 退職給付費用 | 92,343 | 134,938 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 42,958 | 45,745 |
| 貸倒引当金繰入額 | 28,298 | 3,952 |
| その他 | 2,919,483 | 3,504,959 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 5,598,239 | 6,088,310 |
| 営業利益 | 1,580,774 | 1,159,163 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 23,471 | 22,525 |
| 受取配当金 | 69,590 | 60,861 |
| 貸倒引当金戻入額 | - | 23,270 |
| その他 | 84,562 | 109,857 |
| 営業外収益合計 | 177,624 | 216,515 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 419,514 | 405,088 |
| 社債利息 | 18,616 | 13,682 |
| その他 | 44,253 | 20,144 |
| 営業外費用合計 | 482,383 | 438,915 |
| 経常利益 | 1,276,015 | 936,763 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1,780 | 28,657 |
| 違約金収入 | 19,789 | - |
| 受取補償金 | - | 107,013 |
| 貸倒引当金戻入額 | 44,433 | - |
| 特別利益合計 | 66,002 | 135,670 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 316 | 3,206 |
| 固定資産除却損 | 128,910 | 8,500 |
| 投資有価証券評価損 | 2,930 | 6,249 |
| 災害による損失 | - | 2 46,860 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 7,626 | - |
| 特別損失合計 | 139,783 | 64,816 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,202,234 | 1,007,617 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 470,998 | 571,850 |
| 法人税等調整額 | 265,346 | 235,723 |
| 法人税等合計 | 736,344 | 807,574 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 465,889 | 200,042 |
| 少数株主利益 | 5,354 | 14,524 |
| 四半期純利益 | 460,534 | 185,518 |

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 465,889 | 200,042 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 112,880 | 71,777 |
| 土地再評価差額金 | - | 421,771 |
| その他の包括利益合計 | 112,880 | 349,993 |
| 四半期包括利益 | 353,008 | 550,036 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 353,008 | 550,036 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

(1) 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(2) 表示方法の変更

表示の明瞭化のため、従来、販売費及び一般管理費の「賞与」に含めておりました「賞与引当金繰入額」を「賞与引当金繰入額」と表示し、「賞与」を従来の「給料及び手当」に含め、あわせて科目を「給料手当及び賞与」に変更しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において「賞与」に表示しておりました294,229千円は「給料手当及び賞与」227,236千円、「賞与引当金繰入額」66,993千円と組替えております。また、従来、販売費及び一般管理費の「その他」に含めておりました「貸倒引当金繰入額」を表示の明瞭化のため区分掲記することといたしました。

(3) 法人税率の変更等による影響

平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は平成24年4月1日に開始する連結会計年度から3年間に解消が見込まれる一時差異については、従来の40.69%から38.01%、その後は35.64%であります。この法定実効税率の変更により、繰延税金資産が150,677千円減少し、法人税等調整額が150,677千円増加しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|-----------------|-------------------------|-----------------|-------------------------------|
| (株)オーエーコーポレーション | 858,250千円 | (株)オーエーコーポレーション | 835,000千円 |

2 貸出コミットメント契約

当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)において、設備投資資金の調達を行うため、取引銀行1行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく前連結会計年度及び当第3四半期連結会計期間の借入実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 450,000千円 | 450,000千円 |
| 借入実行額 | 365,000千円 | 450,000千円 |
| 差引額 | 85,000千円 | 千円 |

3 財務制限条項

当社の連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)が締結している貸出コミットメント契約には以下の財務制限条項が付されており、当該条項に抵触した場合には、契約上のすべての債務について期限の利益を喪失する可能性があります。

各年度決算期の末日における当社の損益計算書及び連結損益計算書の経常損益の金額をマイナスとしないこと。

各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の貸借対照表の純資産の部の合計額を平成21年3月期決算末日または前年度決算末日の純資産の部の合計のいずれか大きいほうの70%以上維持すること。

各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の損益計算書の税引後当期純利益の金額をマイナスとしないこと。

4 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が、金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成23年3月31日) | | 当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日) |
|------|-------------------------|--|-------------------------------|
| 受取手形 | 千円 | | 2,934 千円 |

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

一部の子会社の売上高は、通常の営業形態として下期に受注が集中するため、第3四半期連結累計期間の売上高及び営業費用が上期と比較して著しく増加する傾向にあります。

2 災害による損失は、平成23年3月11日の東日本大震災により被災した資産の修繕費であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|---------|--|--|
| 減価償却費 | 1,361,937千円 | 1,411,243千円 |
| のれんの償却額 | 250,417千円 | 250,417千円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成22年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 113,272 | 8 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月25日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 113,257 | 8 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月24日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| | 物流事業 | 不動産事業 | 印刷事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 16,082,736 | 1,390,827 | 16,081,009 | 33,554,573 | 371,603 | 33,926,176 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 2,997 | 1,156,809 | 625 | 1,160,432 | 116,288 | 1,276,720 |
| 計 | 16,085,733 | 2,547,636 | 16,081,635 | 34,715,005 | 487,891 | 35,202,896 |
| セグメント利益 | 1,197,059 | 1,073,030 | 796,787 | 3,066,877 | 12,410 | 3,079,288 |

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事業及び人材派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----------|
| 報告セグメント計 | 3,066,877 |
| 「その他」の区分の利益 | 12,410 |
| セグメント間取引消去 | 3,127 |
| 全社費用(注) | 1,501,640 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 1,580,774 |

(注) 全社費用は、本社の管理部門に係る費用であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-----------------------|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|
| | 物流事業 | 不動産事業 | 印刷事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 15,441,076 | 1,488,812 | 15,611,992 | 32,541,882 | 407,725 | 32,949,608 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 4,217 | 1,177,132 | 638 | 1,181,988 | 442,721 | 1,624,710 |
| 計 | 15,445,294 | 2,665,944 | 15,612,631 | 33,723,871 | 850,447 | 34,574,318 |
| セグメント利益 | 1,163,625 | 1,110,245 | 299,588 | 2,573,458 | 29,711 | 2,603,170 |

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事事業及び人材派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----------|
| 報告セグメント計 | 2,573,458 |
| 「その他」の区分の利益 | 29,711 |
| セグメント間取引消去 | 7,481 |
| 全社費用(注) | 1,451,488 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 1,159,163 |

(注) 全社費用は、本社の管理部門に係る費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 32円53銭 | 13円11銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 460,534 | 185,518 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 460,534 | 185,518 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 14,158,645 | 14,155,879 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月8日

アサガミ株式会社
取締役会 御中

野末公認会計士事務所

公認会計士 野 末 昭 孝 印

本橋公認会計士事務所

公認会計士 本 橋 清 彦 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアサガミ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

私たちは、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アサガミ株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。